



## 視点5 多様な機関の連携，協力による食育運動の推進

「食育」の推進のためには、行政と関係機関が連携をとり、多様な関係機関が互いに連携・協力しながら地域や家庭における住民主体の取り組みが実践できる内容を推進していくことが大切です。

また、食育を推進するボランティア等と積極的に連携することで食育運動として展開し、一人一人の食育に関する主体的な取り組みの推進を図ります。

### 重点行動5 - : 食育運動の推進

#### 食育運動・食育ボランティアの状況

##### ア．食育に関心がある人の割合 (アンケート結果より)

国の現状値 (平成24年度)	町の現状値 (平成19年度)
74.3%	67.4% (男性57.7%・女性76.2%)

食育に関心がある人の割合について全体的にみると、「関心がある」・「どちらかといえば関心がある」と答えた人が67.4%であり、年代別でみると、関心がある割合が最も多いのが50代で70.5%、ついで60代で68.3%、40代66%、30代65%となっています。

今回調査は実施しませんでした。食育に関心があることが家庭や地域における食育の推進につながると考えられることから、食育に関心を持ってもらえるような働きかけが必要と思われます。

### 重点行動5 - : 「みんながつながる食育」の実践

「食育」の推進のためには、

#### ア．小学校と連携した健康づくり事業の展開

町内小学校(1校) 教育総務課、保健福祉課、仙台大学が連携を取り、“子どもとその保護者の肥満予防”を大きな目的に、運動面・食事面の両面から働きかけを平成24年度から行なっています。(平成24年度～平成26年度の実施)

地域住民へも同時に働きかけをし、住民の目線から子ども達の健康づくりについて意見など協力をもらい、つながりを持ちながらの食育活動を行なっています。

## イ．大和町食生活改善推進員の状況

### 大和町食生活改善推進員数

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
人 数	8 2 名	8 5 名	8 0 名	7 4 名	8 3 名	7 8 名

### 食生活改善推進員養成講座の開催

年 度	平成 1 7 年度	平成 2 0 年度	平成 2 3 年度
人 数	2 4 名	8 名	1 1 名

大和町の 5 地区全地区に食生活改善推進員がおり活動していますが、行政区単位となると町内 6 1 行政区のうち、食生活改善推進員は 3 9 行政区にあり活動しています。活動の充実のためにも、食生活改善推進員がいない 2 2 行政区に呼びかけ、充足を図っていく必要があります。

また、現在食育ボランティアとしては食生活改善推進員のみで活動していますが、今後は「みやぎ食育コーディネーター」など様々な立場の方たちと連携をとって食育を推進していくことが大切です。

#### 食育ボランティアとは

地域における食育を地域の実情に応じた活動を展開することにより推進し、食への関心を喚起して、食の安全な選び方、組み合わせ方を判断する力と習慣の習得を促すことにより、健全で安心できる食生活の実践を促進するためのボランティアです。

